

平成21年度
一般会計決算
認定について

各会派の総括意見

平成21年度一般会計決算に対する各会派の意見表明が、9月27日の本会議において行われましたので、その意見の内容(要旨)を紹介いたします。

民主市民 ネットワーク 賛成

まちの将来を見据えて、本当に必要な施策やサービスの提供を

平成21年度日野市一般会計決算に対して、認定の立場で意見を申し上げます。
まず、今回の決算審議に当たり、4つの視点に沿って確認しました。1点目は、予算に対して適正な事業執行が行われ、市民に平等なサービスが行き渡っていたのか。2点目は、歳入に対しては、収入確保の努力が十分になされていたのか。3点目は、歳出について、個別の執行状況に加え、不用額や予算の流用、予備費の充当、または補助金の使い方などが適正であったのか。4点目は、これらの決算審議が来年度以降の予算編成に生かされていくのか、などの点を踏まえた審査を行いました。
まず最初に、公共インフラ、施設等の建設に当たっては、総コストについて考えるべきであると思います。次に、総務費中、クレジットカード決済事務経費については、あらゆる市民ニーズを的確にとらえ、さらに市民サービスと収納率の向上に努めていただきたいと思えます。民生費中、子ども条例推進事業については、初めての周年行事に30代の子育て世代が参加したこと評価します。今後とも、本条例の趣旨が広がることを強く要望します。また、災害時要援護者避難支援プラン作成にあたり、21年度はマニュアル作りのための調査が実践されました。今後は、完成したマニュアルを多くの自治会や地域等で活用していただきたいと思えます。衛生費中、予防接種、特にHPV、Hib、肺炎球菌などのワクチンは、日野市単独の補助事業として実施することを要望します。農業費中、魅力ある都市農業育成対策事業は、新しい品種のブドウやメロンなど、付加価値の高いものについても研究していたらいいと思えます。商工費では、自主財源の確保にもなるホームページのバナー広告料などを積極的に活用していくような創意工夫をお願いいたします。教育費では、市民プールの運営について、指定管理者制度の導入により、利用料金制になったことで、市の施設管理コストが削減されたことを高く評価します。引き続き、安全安心な運営に努めることも強く要望します。今後とも、市民に最も身近な自治体として、市民ニーズを的確にとらえ、まちの将来を見据えた、身の丈に合った財政運営に努めていただきたいと思えます。以上、要望事項も含め民主市民ネットワークの意見といたします。

公明党 賛成

行政のさらなるスリム化を図りつつ、重点分野に取り組む施策を評価

平成21年度日野市一般会計決算の認定について、賛成の立場で意見を申し上げます。
本年度は、混迷の度を増す国政状況にあつて、大変厳しい財政運営の中、「市民のあんしん力を高めよう」をテーマとして市政が運営されてきました。それでは、各分野の取り組みについて、意見を述べさせていただきます。
まず、障害者生活・就労支援センターの相談機能の充実や妊産婦健診の公費負担の拡充を高く評価します。女性特有のがん検診無料クーポン券の配布は、市内の女性のがん検診率を大きく引き上げる要因となりました。また、平山地区に保育園を開設し、さらに、新たな保育園の開設準備と定員増を図ったことは、待機児童解消の一助となりました。そして、全員入所を守りながら、5カ所の学童クラブを新設・分設・移設し、新たに児童館を開設したことは、地域に根づいた豊かな「はぐくみの場」としてとらえていきます。続いて、学校教育の充実としては、四小・二小の増築工事を実施し、小・中学校各1校の屋内運動場の耐震補強工事が行われました。また、検診率を大きく引き上げる要因となりました。また、平山地区に保育園を開設し、さらに、新たな保育園の開設準備と定員増を図ったことは、待機児童解消の一助となりました。そして、全員入所を守りながら、5カ所の学童クラブを新設・分設・移設し、新たに児童館を開設したことは、地域に根づいた豊かな「はぐくみの場」としてとらえていきます。続いて、学校教育の充実としては、四小・二小の増築工事を実施し、小・中学校各1校の屋内運動場の耐震補強工事が行われました。また、

そして、まちづくり等の各事業の有効な取り組みが行われました。総論として、行政のスリム化を図りつつ、重点分野に取り組む施策を評価します。現況の日本の経済状態が実質の回復の兆しが見られない中、自治体には今まで以上に緊縮財政の努力が求められています。具体的には、国政における政策動向に迅速に対応し、限られた財源をどのように市民サービスに生かして、バランスを保っていくかが問われているのです。そこで、これからも日野市が、市民ニーズにこたえていくことを要望し、平成21年度一般会計決算の賛成意見とさせていただきます。

民 クラブ 賛成

厳しい財政状況の中でも、未来へ希望の持てる夢のあるまちづくりを

平成21年度一般会計決算を認定する立場で意見を述べさせていただきます。
平成21年度は、馬場市長のもと、第3次行政改革・集中改革プランで、行政のスリム化が進められました。そして、「市民のあんしん力を高めよう」をメインテーマに必要な不可欠な市民サービスを確保し、持続可能な財政運営が行われました。
各項別に評価をさせていただきます。総務費では、市民委員と市職員の協働チームが発足し、日野市の現状と課題や市民意識調査をもとに、第5次基本構想・基本計画の策定を進めています。入札改革においては、公共工事における総合評価方式が拡大され、格差是正、環境、地域貢献の取り組みがなされたことを評価します。民生費では、高校、大学受験費用や学習塾費用等の貸付事業が活用されたことを評価します。また、栄光平山台保育園の開園等により、子育て支援施策の充実が図られ、延べ156名の待機児童解消が行われました。更に、旧百草台小学校を活用してコミュニティセンターが開設されました。衛生費では、病院事業会が終了する予定です。生徒の安全、そして地域住民の避難所としての整備が行われたことを評価します。
厳しい経済状況下において、平成22年度は評価方法が変更されたことも影響して、日野市は7年ぶりに普通地方交付税の交付団体となりました。引き続き、行財政改革の推進をお願いいたします。経常収支比率を抑え、いかに投資的経費を生み出すかは、行政に与えられた責務であると思えます。厳しい経済情勢の中、財源確保に努め、未来へ希望を持てる夢のあるまちづくりを、今後とも、行っていたらいいと思えます。以上、平成21年度一般会計決算を認定する意見といたします。

本 共産党 反対

巨費を投じたホール建設より市民生活優先の行財政運営を

平成21年度一般会計決算の認定に反対する立場で意見を述べさせていただきます。
平成21年度の予算は、財政非常事態宣言等を強調しながら、さまざまな予算や施策を切り下げるものでした。例えば、保育園や小・中学校の耐震補強・改修工事の先送りなどが当初予算にあらわれていました。また、年度途中の9月には、巨費を投じて市民の森ふれあいホールの建設を進めることになりました。これは、市民生活を支える施策にはメスを入れる反面、大型公共事業を推進するという税金の使い方のゆがみを浮き彫りにしたものであります。
さらにその上で、重要な問題点について指摘します。第1は、保育園の待機児童計画です。それは、待機児童が増大している事実が証明されている中、需要予測を低く抑えて待機児童解消の目標数値を下げ、帳じりを合わせるようなやり方でした。第2は、多摩平地域の再開発をめぐる問題です。人口減少と高齢化という時代に、大規模な商業施設の誘致が必要とされるにもかかわらず、市民の森ふれあいホールの建設工事の入札、契約をめぐる問題です。ふれあいホールの建設工事監理業務委託については、予定価格の39%という低入札により落札するという事態になりました。
以上、3つの問題点を指摘し、以下さらに決算審査を踏まえ、要望します。まず、価格一辺倒ではなく、社会的な価値を重んじた入札・契約制度の実施を求めます。また、ミニバスなどの公共交通の充実に際し、廃止路線がないように求めます。さらに、子どもの虐待問題対策として、ケースワーカーの人員配置増等を強く求めます。
最後に、政治の焦点について一言申し上げます。今、日本経済が健全で安定した再生を図っていく上で、内需・消費をふやすことが求められています。そのためには、賃上げを初めとした「壊されてきた国民・市民の生活基盤を支え直すこと」が必要です。
私も日本共産党は、立場や信条の違いを十分尊重し、さまざまな方々と手を取り合せて、生活第一の政治の実現に奮闘する決意です。そのことを申し添えて、反対の意見といたします。